

名 称	大野町体験活動ボランティア支援センター
所 在 地	〒501-0521 岐阜県揖斐郡大野町
連 絡 先	TEL : 0585-34-1111                      FAX : 0585-34-2110

## 地域の現況・特色

活動対象地域の人口    大野町    24,433人（平成19年12月1日現在）

これまでの大野町は、農業を中心とした商工業が発展してきたが、将来建設される東海環状自動車道をもとに新しい町づくり、都市計画が必要となってきた。自然と調和した生活環境基盤の整備と保全、高齢化社会、高度情報化社会の対応、新たな産業の振興等、豊かな文化や活力ある地域の発展を推進するとともに、温かい思いやりのある心を大切に、安全でやすらぎと潤いを実感できる町づくりに取り組んでいる。また、大野町の行政区域は、1～6区に分かれており、第一公民館は、町の行政区の第1区である。人口が多い密集地の公民館である。

## 事業の名称、活動概要

名称 大野町第一公民館 第11回公民館まつり

第一公民館は住民がまちづくりの主役となって、生き生き活動できる拠点となるよう諸事業を創意工夫し、行動する生涯学習の推進に努めている。公民館まつりはその中核となる事業で、日頃の学習の成果を発表し、各世代間交流を通じて触れ合いと連帯の深まるまちづくり事業となることを願っている。

まつりは回を重ねるごとに充実し成果を上げてきたが、残念なことに中学生の参加が皆無であった。地域の住民である中学生を地域の中へ呼び込み、地域に生きる住民の一人として自覚と責任をもって行動できるたくましい中学生に育てようと公民館運営委員会で提唱され、第8回公民館まつりから、中学校の協力を得て中学生ボランティアが組織された。

## 事業の実施に至る背景、連携・協働のねらい

数年前までは地域の中で孤立している中学生に向ける住民の目は厳しく、冷ややかであった。とかく中学生の問題行動のみが地域の声となり、中学生を守り育てようとする地域

の教育力が希薄であった。

このような状況の中にいる中学生を地域ぐるみで育てようと、公民館活動へボランティアとして積極的に参加することを促し、住民と一体となって活動する中でお互いが理解し合い、達成感や信頼関係が生まれて地域の中に生きる中学生としての自覚が育つ公民館活動とすることを目指している。

まつりの実行委員会は、公民館運営委員（町議会議員・区長・民生児童員・小中学校長・各種団体・サークル代表者・地域指導者）と中学生ボランティア代表者によって構成されて、企画と運営に当たっている。企画会議は、各部門毎に必要なに応じて開き、特に中学生ボランティアをスタッフの一員として位置付けて、アイデアが生かされるように配慮している。活動に当たっては、中学生ボランティアが主体的に活動できる部門を与え、アイデアや力量が十分に出せるよう、場の構成を工夫している。中学生ボランティアも必要に応じて独自の会議をもって担当部門の企画や運営上の留意点などを話し合い、材料の購入や資材の調達など、実行委員会と連携を密にして進めている。

## 事業の内容

### ① 事前準備として行った取組（企画段階）

まつりの中学生ボランティアの応募を中学校と公民館が連携して行うこととした。学校長は、中学生がボランティア活動の中で地域の人たちの持つ知識や経験などを学びとり、学校の中では得られない生きる力を身につけることができることに強い関心を寄せられ、ボランティアの応募を学校ぐるみで取り組むことができた。

まず、公民館から中学校へまつりの全体計画と中学生ボランティアを必要とする活動部門とボランティア数を提示した。中学校はこれに基づきボランティアの応募を各学年単位で実施した。（中学生の自主的希望重視）

中学校で応募が完了した時点で公民館から館長と社会教育指導員が出向き、次のような事前打ち合わせ会議を実施した。

- ア．ボランティアリーダーの選出
- イ．各活動部門の希望者の調整
- ウ．各活動部門単位で活動内容の検討
  - ・係の分担や必要とする機材等の調達方法
  - ・学校で用意できるものと公民館で準備するものの分類

### ② 活動の展開内容（活動段階）

中学生ボランティアは、まつりのバザーとグランドゴルフの部門を担当した。

バザーは、みたらし・かき氷・綿菓子・ぼんハゼ・缶ジュースの5つの模擬店を開き、主として販売を担当した。各店にはテントが張られ、中学生の自作による飾り付けがなされて華やかな模擬店がつくられた。各店の飾り付けは各店長が中学校の美術部にそれぞれ

の意匠を出して制作の依頼をしたものである。

- ・ みたらし店は焼き台が3台で、焼くのはPTAが担当、たれ付けと包装（1包4本）と販売を中学生が担当した。焼き場はPTAの会長が指揮を執り、他は中学生の各店長が指揮を執った。

この店は、みたらし4本100円が人気を呼び開店から店の前には長蛇の列ができて、焼き手も売り手も目の回る程の忙しさで大繁盛であった。午前中で用意していた4500本のみたらしのほとんどを売りつくした。

- ・ 綿菓子店は、綿菓子づくりから販売（無料）までのすべてを中学生ボランティアが担当した。この店も綿菓子機がフル回転する忙しさで、小さなお子様連れの親子で賑わい、中学生ボランティアが幼児との触れ合うまたとない機会を得た。特に苦労したのはザラメ（砂糖）の入れ具合によって綿菓子の出来映えが左右されるので真剣な仕事ぶりが印象的であった。
- ・ かき氷店は、氷かき機2台がフル運転の忙しさで、この店も中学生がすべてを担当した。氷を一度に大量に用意することができないので実行委員が必要に応じて氷店から運搬に当たった。晴天に恵まれ暑かったため、大人にも子どもにも人気は上々であった。

その他の店にも同様の賑わいで中学生ボランティアがかいがいしく動いた。

- ・ グランドゴルフ大会

大会は大人の部と子どもの部に分けて実施した。子どもの部の試合は審判を除き、他のすべての係を中学生ボランティアが担当した。大会の進行には女子中学生2名が担当し、試合の進行に当たった。審判には各チームに1名が副審として就き、採点係として女子中学生が1名就いた。また、スティックの使い方が不慣れな子どももいるので安全確保のために要員に中学生2名が就いた。

大人の部の試合は、実行委員によって進め、中学生はチームを組んで試合に参加した。

### ③ 連携・協働に当たってのポイント・留意点

まつりの開催に当たって中学生ボランティアの活動の留意点として次の事項を重視した。

- ・ まつりに対する中学生の関心を高める。
- ・ 中学生ボランティアの応募を積極的に進める。
- ・ ボランティア活動を企画の段階から参加させスタッフとして位置付ける。
- ・ 活動が主体的に出来る場を設ける。

具体的な活動に入ると困難な点がいくつも生じた。中学生の関心を高めるためにポスターを作り中学校に掲示したと思うほどの高まりができなかった。ボランティア活動への参加者も同様のため中学校の協力を校長先生や公民館担当教諭に依頼して積極的に全校生徒への呼びかけをした。その結果多数の参加者を集めることができた。中学生のボランティア活動を重視する学校体制が整うことで連携の必要性を痛感した。

まつりの事前活動の時間を設けることにも苦慮した。中学生の活動ができる限られた時

間（土曜日の午後・日曜日）内での活動は満足するまでにはいかなかった。しかし、まつりの当日はボランティア全員が参加しそれぞれの担当部内で主体的に活動する姿が見られた。実行委員も担当持場で中学生が自ら見つけて働く姿勢が育つよう応援する意図的な姿が芽生えてきた収穫は大きかった。

問題点としていた中学生のボランティア活動に参加する意識も活動する中で、励まされ、認められることにより自分に自信が持て、ボランティア活動に対する純粋な意識の高まりが認められるようになった。

## 事業の成果と今後の課題

### ○成果

参加した中学生の声

- ・ みたらし店の前には長蛇の列ができて、焼きたてのだんごにタレをつけるのに苦労しました。でも地域の人の笑顔に励まされて元気がでました。企画からの参加には夢があります。
- ・ 綿菓子模擬店をどのように飾り、幼児への呼びかけをどうしようかといろいろ不安もあったが仲間と一緒に考え、アイデアを出し合って話し合いが出来て働きがいがありました。
- ・ ボランティアに参加していろいろな世代の人との交流ができて楽しかった。ボランティアには夢があります。高校生になっても参加します。
- ・ 人と話すことが苦手でボランティアに参加することが心配だったが活動している中で自然に話ができるようになった。参加してよかったです。

このように参加した中学生の充実感が何よりの成果であった。なかでも興味本位で、仲間につられてとか、高校入試に有利だからなど、参加意識に純粋性を欠く生徒もいたが、真剣に働く生徒と一緒に働く中で次第に同化され、ボランティア活動への意識の変化が認められるようになったことは、課題としていただけに嬉しいことであった。

また、地域の人が中学生ボランティアのかいがいしく働く姿を見て、中学生の持つ素晴らしい底力に驚き中学生を見る目を大きく変えたことも成果と言えよう。

### ○課題

参加したくても参加できない中学生をどのようにボランティア活動に呼び込むか。公民館の最大の課題である。一番の障害は部活動で、公民館は部活動とどう向き合うかである。特に公民館行事の事前活動にボランティアの活動時間が取れる努力を学校と連携のもとで更に進めていきたい。



会場の設営準備



クラブ・サークル等の作品展示



みたらし・綿菓子店のPR看板作り



かき氷店の状況



綿菓子店の状況

執筆者職・氏名：大野町第一公民館長 若原 哲夫

コーディネーターからの一言コメント

中学生に地域の祭りに参加してもらおうという発想や学校としっかり連携している点、そして企画段階から彼らが参加している点がとても良い。部活として参加する方法あり。サッカー部がサッカーコーナーを担当し実演・指導する。

(橋本 洋光)